京都大学新聞

学生団体
京都大学新聞社
京都市左京区吉田
京都大学構内
(761)2054 直通
(751)2111 (内線2571)
振替・京都3909
(1部30円 1年間1,000円)

クラスコンパの御相談承ります
割烹 きよす
懐石料理・寿司・テンプラ
スキヤキ・ナベ料理一切
寺町通今出川上ル
TEL (231) 1209 (231) 2557 (231) 5177 (231) 5178 (231) 8776

■紙面紹介■ 12月18日号
2面 ▼ニュース ▼学園論壇
1面 ▼ 経済計画と国土開発(中) 石川興治郎
12月11日号
2面 ▼ 解離粉砕・組合再建へ 中公労組有志
1面 ▼ 同学会(全学区)選挙終わる

早大 自治会の戦闘的再生へ 京大

宗派による私物化を排して

民青系学生は、二次にわたり14名もの闘う学生を「告訴・告発」によって権力に売りわたしたが、自らを越えて闘わんとする部分へのこの醜悪な圧殺策動に対する大衆的な怒りは、11・10教養部代議員大会、そして3,000名近くの学生を結集した11・29全学学生大会の成功として結実した。そして今、同学会(全学自治会)と教養部自治会は、これまでの民青系学生による宗派的私物化を排して、新たに戦闘的に生み直されようとしている。また各学部の自治会選挙においても、全闘連に結集する部分が続々と勝利して、大衆運動で民青を完全に葬解していることを明らかにしている。

闘争委員会運動を軸にした自治会運動の階級的推進の中味がいま問われているが、19日の教養部自治委員会を経て、20日に同学会代議員会が予定されており、その場で新生同学会の闘う執行部が打ち立てられようとしている。

学生大会成功・自治会再生へ、クラス旗を持った数千名の学生が連日早大構内を埋める(11月28日)

川口君虐殺糾弾—宗派的戒厳令に対決

当局の管理支配に対決

革マル派の敵対打ち破り

革マル派による川口大三郎君の虐殺を契機に、川口君虐殺糾弾・革マル派追放・早大解放を掲げて憤と怒りの中から決起した早稲田大学の学生の闘いは、あらゆる宗派主義を根絶し、官僚主義・代行主義を真に乗り越えていくことの豊かな内容を、未分化ながらもわれわれに突きつけている。「自己批判」と称する屈辱から、繰り返しの暴力的な敵対を続けている革マル派は、自治会再生への着実な歩みを進めてきた。そして、学生大衆の闘争級的団結の前進は、これを恐れる革マル・民青両宗派による戒厳令・学生活動支配を撤廃して利用し、その上に学生に対する管理抑圧支配を維持してきた早大当局の自治破壊攻撃、管理支配強化の策動を当然にも問題にし、当局に対する追及が冬休みまで続けられてきたのである。

早稲田大学では、十一月二十八日以降の各学部学生大会の成功の後、十二月十日からの冬休みを前にして、早大当局の学生管理支配の強化策動への闘いへ、クラス委員・自治会委員・総会の開催をめぐって、自治会再生の大衆的討議は新たな段階に入っている。

十二月五日には、全学部運営委員会議(通称の「全学団交総決起集会」)が本部前で開かれ、約千五百名の学生が結集した。

この集会は、①川口君虐殺及びそれに象徴される革マル派の暴力支配に対する当局の見解と責任を明らかにする②「69年10・27告示」「72年11・17告示」等による学内管理強化の自己批判と自紙撤回、機動隊導入自己批判と自紙撤回、ロックアウト・粉砕③各学部臨時執行部の承認、自治活動への介入粉砕、などを目標にしたもので、前もって村井総長に出席要請がなされていたが、総長他教授らは一切学生の前には姿を現わさなかった。

その後五時すぎ、文学部正門前のもれていた定例文学部連合教授会の場へ、約百名の学生はさそそで押しかけ、遅ればせに、文学部一八一番教室で団交への要求を突きつけた。

団交には、浅井邦一郎文学部長、新保祥一学生担当教務主任、野口祥二同副主任ら三名が出席をかろうじて。

浅井学部長は、「学生の怒りのヤジが飛び、学生は約千五百名が集まっていた。

まず最初に、十一月八日当日の当局の対応について追及がなされた。野口副主任は、十一月八日当日、川口君の救援のために、一文自治会室前で革マル派学生に対し必死で抗議している。

文学部、経済学部では、すでに自治会員の改選を終えて、十一月下旬の自治会員で、文学部闘争委、経済学部闘争委の候補に民青系を大勢で圧倒して常任委員に選出された。

しかし、退任の末に、文学部一八一番教室で団交への要求を突きつけた。

団交には、浅井邦一郎文学部長ら三名の出席をかろうじて。

長、新保祥一学生担当教務主任、野口祥二同副主任ら三名が出席し、学生は約千五百名が集まった。

まず最初に、十一月八日当日の当局の対応について追及がなされた。野口副主任は、十一月八日当日、川口君の救援のために、一文自治会室前で革マル派学生に対し必死で抗議している。

浅井学部長は、「将来、正常な自治会活動への盛り上がりが着実に発展し、学部投票などで全学生過半数の支持が得られるならば、正式な自治会として認める」などと、規約に盛られていた二十八日の学生大会とその決議を合意し、その上、自治会活動自身への今後の介入の意図すら見せる旨の発言をした。また、自治会執行部活動の停止、自治会委員選挙の無効、などの要求に対しては、「学生大会とその決議を合意し、その今後の介入の意図すら見せる旨の発言をしたが、

三里塚青行隊弾圧粉砕・開港阻止へ
反革命弾圧に反撃の烽火

昨秋三里塚九月決戦に対する反革命弾圧の集中砲火は、反対同盟の組織的実践と革命的労農学連合の強固を露呈し、9・16闘争圧殺粉砕・開港阻止へ、そして12・12千葉地裁に対する公判闘争へと、三里塚闘争は、大衆的決起で千葉地裁を内外から揺り動かし、革命的労農学連合の結合ぶりを満天下に明らかにした。

「日本列島改造」をもっての田中自民党政府の都市・農村を貫く攻撃がかけられてくる中で、三里塚の空港粉砕の闘いは、岩山大鉄塔の防衛を軸に、周辺地域住民の関連事業粉砕の闘いと結合し、開港の見通しがたちつつあるが、絶望的な所へ政府、公団を追いつめてきている。労農学の結合の量かな前進で、戦列のさらに巨大な形成をかちとり、空港を完全に粉砕し尽くさねばならない。

12.12 千葉地裁に弾劾の渦
労農学千名が決起す

そもそもの弾圧裁判に対する公判闘争が、十二月十二日、千葉地裁内外を黄いに揺い抜かれた。

この日、午前九時過ぎより、千葉庁舎の周囲には、三里塚芝山連合空港反対同盟の農民を中心に、労働者、学生、高校生、市民約千人が結集し、公園には旗やノボリが林立する中で、この日の公判闘争を、労農学の革命的連合勢力の大衆的決起で闘い抜き、権力の反革命弾圧を決して許さないという決意に満ちて、「12・12青行隊弾圧粉砕・開港阻止、三里塚闘争勝利総決起集会」が開かれた。

この大衆的決起に応じた戦闘は、機動隊を大量動員して地裁を初め市内各所に警備体制をとり、さらに公園の周囲を完全に包囲したが、このような弾圧をものともせず、集会は反対同盟の司会によって始められ、「反対同盟行対委員長の基調的な提起が行なわれた。戸村委員長は、青行隊を中心に集中砲火が、にもかかわらずして三里塚闘争を圧殺するとともに、その共有化運動の着実な前進と、バイブライン・燃料輸送に対する粗雑でに根強くされている。新政府が成立したとベトナム共和国政府が解体される。私は傍観者ベトナム問題に対する協議に参加することは許されなかったこと」を明らかにした。

九項目和平協定が発表され、パリ和平会談が再開される中で、サイゴン・チュー政府は「北ベトナム軍の撤退、非武装地帯の暫定立、民族和解一致全国評議会の結成、南での政治犯の釈放」などの問題を出すことにより、パリ和平交渉に抵抗して、それが十二日の チュー演説により「北ベトナム軍の撤退と南ベトナムの軍事、主権の確認」要求として、より鮮明にされたわけ明らかにされたわけ明らかにされたわけ明らかに